



# 五郎沼通信

第10号 平成27年11月1日発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。  
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」  
事務局 瀬川峰雄  
紫波町南日詰字小路口70-1  
電話：019-672-2656 (FAX兼用)  
携帯：090-2270-6771  
m-mail：segawa@mineo.jp  
Pcmail：shiwajokaso@crest.ocn.ne.jp

## 五郎沼周辺の整備とキノコで腐朽される桜

8月29日に平成27年度3回目の五郎沼周辺の整備というところで、堤体の草刈と、また、前回の会報でご案内しましたが、マツクイ虫被害で伐採した樹木の焼却を行いました。



経塚跡付近の草刈の様子

今年最後の草刈でしたが、今回も地域(小路口・箱清水)の多くの皆さんに来ていただき、大変ありがとうございました。  
さて、左側写真は、西側堤体にある桜の中でも一番弱っている(24番目)桜ですが、残念ながら2ヶ月間くらいの短い期間で、多くのキノコが生えていました。今後、対策を皆さんと共に考えていきたいと思っております。  
(裏面参照)



樹木焼却の様子



この2ヶ月間で多くのキノコ(カワウソダケ)が樹木全体に生えていました

### 淡紅色の桜

…桜の種類は300種以上あるとのことですが、今後シリーズで種類別に見ていきたいと思っております。  
今回は「淡紅色の桜」～わずかに赤みがさす、いわゆる「桜色」の桜です。

染井吉野 (ソメイヨシノ)  
花形：一重咲  
花の大きさ：中輪  
開花期：4月上旬



全国に最も広く植栽されている代表的なサクラ。4月上旬に、葉の出る前に淡紅白色一重の花が木を埋め尽くして華やかに咲き、花や葉には毛がある。明治初年に東京の染井(豊島区)の植木屋が、吉野桜の名で売り出し、のちにソメイヨシノと名付けられた。

一葉 (イチヨウ)  
花形：八重咲  
花の大きさ：大輪  
開花期：4月中旬



雌しべが葉のような形をしていることが、名前の由来。花の中央から一本細長くよじれた雌しべが伸びている。つぼみは紅色だが、開くにしたがってやわらかな淡い紅色に変化してゆく。

普賢象 (フゲンゾウ)  
花形：八重咲  
花の大きさ：大輪  
開花期：4月下旬



普賢菩薩の乗ったゾウの鼻を花にたとえて、葉化しためしべの先に残っている2個の花柱を牙に見立ててこの名が付けられた。

小彼岸 (コヒガン)  
花形：一重咲  
花の大きさ：小輪  
開花期：3月中旬



春のお彼岸の時期にみごろをむかえることが名前の由来。大木にならないので小庭園に向くほか、切り花用としても栽培されている。長野県高遠町の高遠城址公園のものが有名で、房総半島、伊豆半島などに自生している。

# カワウソタケが生えた桜をどう守る？

昨年は、こんなにキノコは生えてはいませんでした。短い期間で写真（10.16撮影）のように「カワウソタケ」がこの桜の一面に張り付いておりました。弘前公園の樹木医の小林氏に問合せたところ、キノコは樹木の芯まで侵食するためソギ落とし、樹木自体の体力UPのためにも昨年に引き続き施肥をするようにと指導受けました。

## ◎カワウソタケ

衰弱した桜の枝や幹の傷口から侵入し、腐朽の進行速度が速く、幹や枝の縦断方向に腐朽を進行させ、心材を空洞化させる。



～他の代表的な桜の腐朽菌～

## ◎ベッコウタケ

厚膜胞子は高温耐性、耐乾燥性、アルカリ土壌応性があり、他のキノコ類が生育しにくい都市の植栽環境の中で生き抜く能力を持っている。

## ◎ナラタケ、ナラタケモドキ

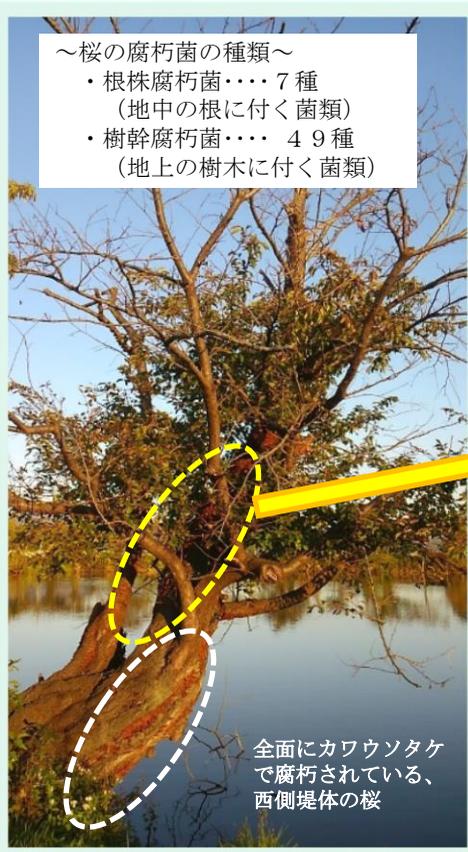
土壌含水率が80～90%になるような条件で、最も菌糸が繁殖することが実験的には知られている。したがって、いつも湿っているような植栽場所にある桜は注意を必要とする。

## ◎コフキササルノコシカケ

不適切な位置での剪定や切り口処理がされていない桜に多く発生する。

～桜の腐朽菌の種類～

- ・根株腐朽菌・・・7種  
(地中の根に付く菌類)
- ・樹幹腐朽菌・・・49種  
(地上の樹木に付く菌類)



全面にカワウソタケで腐朽されている、西側堤体の桜

## カワウソタケを取除き施肥しました

キノコで腐朽した一部をケズリ落とし、殺菌剤を塗りました。例年真冬の2月には沼全体の桜の手入れを一通りしてありますが、来年は集中的に弱っている桜に対して、今回、やり残している部分の手入れをしたいと思いますので、みなさんのご協力をお願いします。



カワウソタケをカマで削り落としました



来春以降に効いてくるように化学肥料ではなく、有機肥料を入れました

# 第2次紫波町観光振興計画について

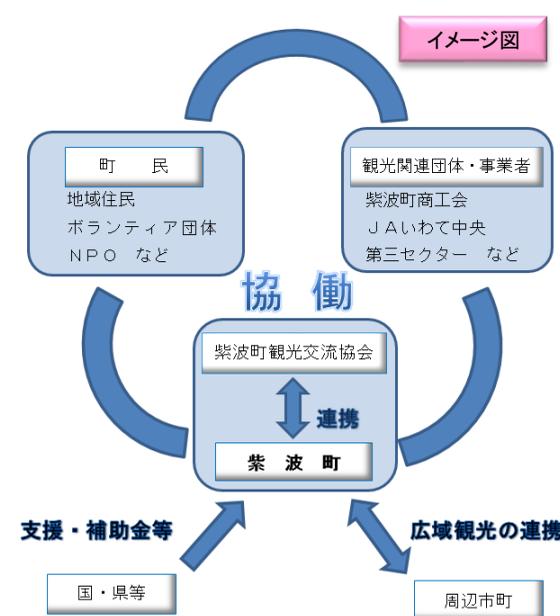
旅行形態が団体型から個人型へシフトし、また、少子高齢化や若者の旅行離れなどから観光産業全体の市場規模が縮小しつつある現在、多くの観光客に「選ばれる町」となるためには、地域の観光資源を最大限に生かした魅力ある町づくりが求められます。

## 計画策定の趣旨

「絵に書いたモチ」状態だったと思われ、今回はその反省を踏まえ平成28年度から5年間の「第2次紫波町観光振興計画」では、町民から中広い意見を求めて身の丈にあわせて推進しやすいように作成してゆくようです。

紫波町では国の「観光立国推進基本法」に基づき、平成23年3月に最初の5年間観光振興計画を策定した経緯がありました。その際には外部機関に委託したためか、どうしても「自らの地域の良いものは、自らで磨いてゆく」ことが出来なく、「絵に書いたモチ」状態だったと思われ、今回はその反省を踏まえ平成28年度から5年間の「第2次紫波町観光振興計画」では、町民から中広い意見を求めて身の丈にあわせて推進しやすいように作成してゆくようです。

そうした中で、観光資源の発掘など、各団体・個人が協力し地域活性化をしようとする機運も芽生えはじめており、「住んでよし、訪れてよし、わが町」を町民自身が実感できる観光施策のあり方を示すため「第2次紫波町観光振興計画」を策定するものです。



宿泊者数(万人)	交流人口(万人)	年度
2.3	210	平成26基準
2.8	220	平成32目標

## 【5年後の目標】

ができ、紫波町の人口が少しでも減らなくなるかもしれません。元気な子どもたちの声が聞こえる機会が増え、その元気を高齢者ももたらうことで、また、みんなが町全体が元気になるかもしれません！